

KOKUA

インフレーターブル SUP 取扱説明書

商品内容：

- ①SUP ボード本体 ②コイルリーシュ
- ③USフィンBOX ④ダブルアクションポンプ
- ⑤キャスター付ボードケース ⑥リペアキット



ご使用方法：

【空気の入れ方】

空気を入れる際は、柔らかい土か芝生の上でボードを広げてください。岩やアスファルトの上で広げる行為は、SUPに傷がつき破裂や空気漏れの原因となる恐れがございます。

- ①付属のポンプのINFLATE口にホースを接続します。しっかりと固定し空気が漏れないようにしてください。
- ②ボード本体のバルブの蓋を開き、バルブ中央の軸を指で押し込みながら、バルブ中央の軸が上がった状態にします。下がった状態のまま空気を入れると、バルブを抜いた後に空気が抜けてしまいます。バルブにホースのノズルを真っ直ぐに入れ、時計回りに回して固定します。



- ②-2 空気を入れるとき
バルブを押すことでバルブが上下します。空気を入れる際はバルブが上がっている状態を確認し空気を入れてください。
- 空気を抜くとき
空気を抜くときはバルブを押し下げることで空気が抜けます。

③ 空気を入れていきます。

ポンプはダブルアクションになっており、
低圧時：赤いキャップを取り付けることで押しでも引いても空気が入ります。(③-1)

高圧時：赤いキャップを取り外すことで押しただけ空気が入ります。(③-2)

始めは低圧モードで空気を入れてポンプが重くなってきたら、高圧モードにして適正圧まで空気を入れてください。



③-1

③-2

ボード適正圧：12～15PSI

【SUP ボードに空気を入れたら注意すること】

夏の暑い日(外気温 30°C以上)に SUPを楽しむときには特に注意が必要です。なぜなら、インフレーターSUPボードの最大の敵は日光です。インフレーターボードは多くのパーツをゴム糊で圧着しています。そのため、日光によりボード内の空気圧が急上昇し、加えて接着に使用しているゴム糊も温められ剥がれやすい状況に陥ります。

1. もし休憩などでボードを直射日光の当たる砂やアスファルトの上に放置する場合は、空気を抜くこと。
2. 可能であればボードを日陰に置いたり、ボードの一部を水面に浸しておくなど、内部の空気圧の上昇を抑えてください。
3. ボードを持ち運ぶ際にボードを引き摺らないこと、砂浜だとしてもガラス片などによってボードに穴や傷がついてしまう可能性があります。

【USフィンBOXの取り付け方】

①フィンからスクリュー・留め具を外す



②フィンBOXに留め具を入れる



③スクリューで留め具の位置を調整する



④フィンを挿入し、矢印の方向へ押し込む



⑤フィンと留め具の穴の位置を合わせる



⑥スクリューを穴に差し込み手でしっかりと回し固定する



【SUP使用後】

SUP を楽しんだあとは、ボードとパドルを真水でよく洗い流してください。特に海での使用の際には塩分をしっかりと洗い流してください。よく乾燥させた後、ボードの先端から空気を抜きながら、収納していきます。(乾燥が不十分なまま収納し、その後長期使用しない状態があると、ボードなどにカビが発生する原因となります) 収納する際はボードのレール部分(ボード側面)が丸みがかかった状態を保つように畳んで行ってください。側面が角張った状態で収納すると、一部分だけに負荷がかかってしまい、ボードの寿命を早めてしまう原因となります。



インフレーターブル SUP 取扱注意点

大切なMyサップボードを長く安全にご使用いただくために

ボードを膨らます際

ボードを膨らませるときはなるべく、柔らかい土の上や芝生の上で空気を入れるようにしてください。

ボードに空気が入っていない時の状態はボードのレール部分が角張っていて傷がつきやすくなります。

ボードを運搬する時

ボードは決して引きずることの無いよう、持ち手部分を持ちボードを脇ではさみ運搬してください。

砂浜にガラス片や鋭利な小石、岩に当たった場合、傷や穴の開く原因になります。またフィンをつけたまま引きずってしまうと、フィンの破損、あるいはフィンボックスの故障に繋がります。

ボードを放置する場合(休憩時など)

ボードの故障の多くの原因は夏の暑い日(30°Cを超える)に日光を浴びボード内の空気圧が急激に上昇する事と、ボード同士を圧着させているゴム糊が熱で緩んでしまうことによるバースト(パンク)です。

そうならないためには、砂やアスファルトの上に放置する時などはボード内の空気を抜きましょう。また日陰にボードを置く、可能な場所であればボード本体を水面につけてボードの温度上昇を避けるように配慮してください。

ボードをカーキャリアなどで運搬する時

インフレーターブルボードを車のルーフキャリアなどを使って運搬するときは、ボードに直接日光があたる、また車からの照り返しの熱によって、ボードがバースト(パンク)してしまう原因になりますので可能な限り空気圧を落として運搬してください。

ボードを保管する時

使用後はボード本体とパドルを真水でよく洗ってください。特に海での使用時には念入りに塩分を洗い流してください。塩分が残っていると、ボードの接着面の剥離、パドルの接続部分の金属の腐食により思わぬ事故の原因になります。保管する場所は屋内の日の当たらない場所で保管してください。直射日光や屋外の温度変化による影響で、ボードの寿命が著しく短くなってしまう原因になります。